

# と しょ か ん こ う し ん と 書 館 通 信

## 特集「建物と本」に寄せて

豊島区内には保存しながら活用を図る、動態保存を行っている文化財建造物がある。都指定有形文化財の旧マッケーレ邸（豊島区立雑司が谷旧宣教師館）と、区指定有形文化財の旧鈴木家住宅（豊島区立鈴木信太郎記念館）、そして、この2館の先を行くトップランナーが重要文化財自由学園明日館である。

それら文化財建造物では、建物と人との関わりの中で物語が紡ぎ出され、ある時は図書を通じて人々に紹介される。旧鈴木家住宅の稿では、かつての主で深く関わる図書が紹介され、旧マッケーレ邸の稿では、

その建物の保存に奔走した人物に関わる図書が紹介されている。これらの物語は建物の文化財としての魅力を一層深めることに繋がっている。また、文化財建造物自体が図書の理解を深める手助けとなる場合もある。自由学園明日館の稿では、設計者であるフランク・ロイド・ライトの建築思想・空間表現が執筆者の愛読書の読後感を助けたことが紹介されている。

さて、トキワ荘マンガミュージアムは文化財建造物ではないが、建物と人との関わりの中で物語が紡ぎだされることが期待される。今風に言えば、過去に昇界

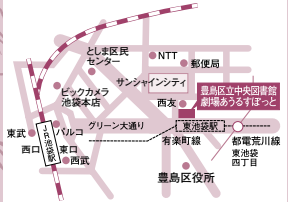
第57号  
季刊(秋)  
特集号  
2020

### トピックス

- 「こじらひ」コラム ほほ日小学校長・編集者 河野 通和・・・1ページ
- 特集「建物と本」
- 豊島区教育部庶務課文化財係 学芸員 伊藤暢直・・・1ページ
- 自由学園明日館 副館長 福田 竜・・・2ページ
- 豊島区立鈴木信太郎記念館 木下和也・・・2ページ
- 豊島区立雑司が谷旧宣教師館 学芸研究員 小山勝美・・・3ページ
- 豊島区立トキワ荘マンガミュージアム 学芸員 幸田美穂・・・3ページ
- マンガと文字と図鑑買取
- 豊島区立トキワ荘マンガミュージアム 学芸員 西牟田道子・・・4ページ



発行 ● 豊島区立中央図書館  
 東京都豊島区東池袋四一五二  
 ラインアリーナビル四階・五階 〒170-1844  
 電話 ● 03-3983-7861  
 FAX ● 03-3983-9904  
 ホームページ ● <https://www.library.toshimacity.jp/>  
 発行日 ● 令和2年11月



※「肥後国海中の怪（アマビエの図）」  
(京都市立総合図書館所蔵)

## こらこら コラム

### 第13回 積読環境の構築を！

ほほ日小学校長・編集者 河野 通和

「やりよい積読（つんどく）を！」という文章を書いたところ、思いのほか反響がありました。「よくぞ言ってくれました」「本は読まずに積めばいい、と聞いて、安心しました」といった声が続々と返ってきました。皆さん、そんなに「うしろめたい」思いを抱えながら、積読生活を送っていたのかと、逆に驚いたくらいです。

そんな話を書いたのは、永田希さんの『積読こそが完全な読書術である』(イースト・プレス) ① を読んだことがきっかけでした。現代人は「情報の濁流」の中を生きているという著者は、われわれの日常を次のように概説します。

△返さなければならぬメール、こなさなければならぬタスク、観たいけどまだ観てない映画、聴きたいけどまだ聴いていない音楽、遊びたいけどまだ遊んでいないゲーム(いわゆる「積みゲー」)、学びたい言語、興味のある学問の分野、そして、読みたい言語、興味のある学問の分野、そして、読みたいけれどまだ読んでいない本。現代人は、これまでに人類が経験したことのない規模の情報を生み出し、それにさらされて生きることを余儀なくされています。それは、人類史上もっとも情報を「積み」人々が無数に発生しているということを意味しているのです。

言い換えれば、積読はいまや読書に限った話ではなく、まさにこの「読みたい、聴きたい、遊びたい、体験したい」という焦りばかりが積み上がっていく状況そのものの比喩に他なりません。私たちは「情報の濁流」に押し流されつつになりながら、それでも「可処分時間」をやりくりし、自分の関心領域を確かめて、納得感の得られる情報環境を死守したいと願っています。

つまり、自己肯定感のもてる情報環境の構築です。本でいえば、「斜め読み」だろうと未読だろうと、読みたいと思った本を好きなように並べることで、情報力のカオスに対抗し得る自分のための生態系——セルフ

メイドの、積読環境を確保しようというのが、著者の提唱する、読書術、です。

そもそも「積読」に負い目が感じられるのは、「完全な読書」という幻想にもやみに振り回されているからです。Eメール・バイヤール『読んでいない本について堂々と語る方法』(ちくま学芸文庫) ② が述べるように、「読んで」といっても内容を忘れてしまっている場合もあれば、逆に読まなくても、その本の概要を、耳学問、していることもあるわけです。「既読」と「未読」の区別は、そもそも曖昧だし無理なところがあるのです。バイヤールが例にあげているのは、ムージルの小説『特性のない男』 ③ に出てくる図書館司書の話です。この司書は、書名と目次以外、一切本は読みません。

その代わり、管理する本がどのような位置づけであるか、本をめぐる「大きな文脈」全体の見晴らしをしつかり頭におさめていると語ります。本についての本である目録を掌握し、「共有図書館」を構成する諸要素の関係性を理解しているといっています。

したがって、本を読まないことは読書の欠如を意味するのではなく、むしろ膨大な書物の海に呑み込まれないための、自己を律する主体的な行動だといわれています。通読、熟読、完読の呪縛から逃れ、自らこうありたいと願う「読みたい」の体系化——自分自身のための書棚をつくる意志こそが重要なのだという情報論的「転回」です。

なので、「うしろめたさ」など感じる必要は一切ありません。情報の濁流に圧倒されて、自己放棄(セルフフネクト)することだけを避けるべきです。読まなくていいからどんどん積みもつ。ほしい本のリストを作るだけでも十分です。積読先は、クラウドでも近くの図書館でももちろん構いません。なんとも、心強いエールではありませんか！

本文中に登場した①マークが付いている本は区内図書館に所蔵があります。貸出状況の確認、予約は図書館ホームページでの検索、またはお電話でお問合わせください。

②『積読こそが完全な読書術である』永田希 著

③『読んでいない本について堂々と語る方法』バイヤール・ムージル 著、大浦康介 / 訳

④『河出世界文学大系76 特性のない男 三人の女』ムシル / 著、加藤一郎ほか / 訳

へと旅立った建物が、多くの人々の思いとともに現世に「転生」したと言った表現にでもなるか。その稿では、人々の思いが詰まった図書が紹介されている。今後この施設で紡ぎだされる新たな物語が、新しい文



# 自由学園明日館はライト思想の可視空間

自由学園明日館 副館長 福田 竜

新型コロナウイルス感染症に伴う非常事態宣言が解除されて久しいが、外出自粛期間中、自宅に籠って読書という方も多かったのではないかと。普段の読書場所を問うと、枕元、通勤電車、喫茶店など、お気に入りの場所が挙がってくる。

自由学園明日館は、



自由学園明日館 食堂

豊島区内では2つしかない国の重要文化財指定を受けた建造物の一つで、来年100周年を迎える自由学園の元校舎だ。四半世紀前には、雨天時には建物の中でも傘を差すという記録もあるくらいポロポロの状態だったこの建物は、多くの方の努力でこの地に遺ることとなった。平成9年には重要文化財指定を受け、その後の保存修理工事を経て当初の姿に蘇った。現在は使いながらの保存、いわゆる、動態保存を実践し、建物見学のほか、結婚式、コンサート、展示会、各種会合、そして、主催の公開講座の開講と建物を率先して活用している。設計者は、近代建築の巨匠、フランク・ロイド・ライトとその高弟遠藤新。ライト建築は昨年母国アメリカで世界遺産に認定され話題

にもなった。

自由学園創立者である羽仁夫妻の目指す教育理念に共鳴したライトは、「簡素な外形のなかにすぐれた思いを充たしめたい」という夫妻の希いを基調とし設計したと言われている。このように文字化された

建築空間、建築思想の理解は容易でないこともある。しかし、明日館はライトの思想が可視化されていることから、この空間に身を置くことがライトの思想そのものに触れる機会と

なっている。久しぶりに「陰翳礼讃」(谷崎潤一郎 中央公論新社) を読んでみた。文章で空間を理解するには毎度苦労する。しかし、明日館で表現されている高低明暗といったライトの空間表現は、僕の想像力を補完して、「陰翳礼讃」を理解するた

めのヒントにもなっていることに改めて気づいた。こんな空間で大正時代に女学生が学んでいたのも驚きだが、羽仁夫妻の希いに応えたライトの空間、100年前と同じその空間で、のんびり珈琲を飲みながら読書もできる今に感謝したい。

『陰翳礼讃』 谷崎潤一郎／著

# 空襲から本を守った鉄筋コンクリート造の書齋

豊島区立鈴木信太郎記念館 木下 和也



鈴木信太郎記念館 書齋棟内観

日本におけるフランス文学研究黎明期に研究者および教育者として活躍したフランス文学者・鈴木信太郎(一八九五―一九七〇)。その旧宅を改修・整備し、二〇一八年に開館したのが豊島区立鈴木信太郎記念館です。記念館の建物は書齋棟、茶の間・ホール棟、座敷棟と呼ばれる三棟が一体となって構成されている点に特徴があり、豊島区指定有形文化財(建造物)に指定されています。本稿で取り上げるのは、信太郎が貴重な本を蒐集・保管するために建設した書齋棟です。

では珍しい最先端の耐火構造である鉄筋コンクリート造を採用します。入口には鉄製の防火扉に窓には防火戸と防火シャッター、室内は床から天井まで作り付けのガラス戸入りの書棚が立ち並び、窓の欄間にはステンドグラスがはめ込まれています。完成した書齋に再び蒐集した本が収まっています。一九四五年四月十三日の城北大空襲で鈴木家も罹災し、木造の母屋は全焼します。しかし、書齋棟一階は焼失を免れ、本を火から守るといって信太郎の本懐を遂げました。

書齋棟は、一九二八年に書齋兼書庫として建設されます。これは、一九二五年にパリへ留学した信太郎が買集めた約千冊の稀覯本が船火事によって全て焼失した経験から、二度と本を火で失わないように当時の個人住宅

そうして今日に残る蔵書は、信太郎がフランスから取り寄せた稀覯本を始め、辞書類、知人・友人からの謹呈本など多岐にわたり、総数は一万五千冊を数えます。信太郎は本の蒐集家でしたが、自身の著作の装丁にも非常にこだわっています。中でもステファヌ・マラルメの代表作『半歌神の午後』の翻訳版は、オリジナル初版本の装丁に忠実に倣いながらさらに上質の紙を使用しており、自身の携わった書物のうち、最も気に入っていると述べています。



鈴木信太郎・辰野隆(訳)／エドモン・ロスタン(作)『シラノ・ド・ベルジュラック』(初版、白水社、1922年)

『マラルメ詞華集』 ステファヌ・マラルメ／原著 野内良三／訳

『マラルメ詩集』 ステファヌ・マラルメ／著 加藤美雄／訳

『マラルメ詩と散文』 ステファヌ・マラルメ／著 松室三郎／訳

『シラノ・ド・ベルジュラック』 エドモン・ロスタン／作 辰野隆／訳 鈴木信太郎／訳

# 雑司が谷旧宣教師館と地元住民の保存運動

豊島区立雑司が谷旧宣教師館 学芸研究員 小山勝美

雑司が谷一丁目、閑静な住宅街にたえず豊島区立雑司が谷旧宣教師館は、平成元年の開館から三十年が経ちました。当館は、アメリカ人宣教師J・M・マッケレーブ(一八六一—一九五三)の私邸として一九〇七(明治四十)年に建てられたもので、現在は東京都指定有形文化財(建造物)になっています。

マッケレーブは「雑司ヶ谷幼稚園」を立ち上げるなど熱心に布教活動を行いました。一九四一(昭和十六)年、戦争で帰国を余儀なくされます。一九八二(昭和五七)年、持ち主のい

建設しようとする計画が持ち上がると、地元住民は反対運動を展開していきます。同時期、日本建築学会が明治時代の建物が老朽化で取り壊されていることを危惧して保存運動を行っていたこともあり、運動開始から三か月ほどで保存が決定しました。

さて、当館が紹介する本は、今井洋子著『雑司が谷物語 聞き書き・前島郁子ひと筋の道』(注1)。運動の中心人物であった前島郁子氏の人生を、本人のインタビューを交えて記録した本です。雑司ヶ谷幼稚園に通いマッケレーブと関わりがあった前島氏は、宣教師館を残したいと思いつつも、文化財の保存運動とはどういふものなのか知らず、また「建物を残したい」というのは個人の思い出によるもので、わがままだから」と当初は考えていました。しかし、先の見えない中で出会った東京芸術大学の前野堯(まさる)氏に背中を押されて、保存運動を開始。多くの人と助け合い、ついに建物の保存を成功させます。前野氏は、保存運動を成功させた前島氏に東京駅丸の内口駅舎の建て替えの話をし、はからずも二件の文化財保存運動に関わっていくことになりました。

当初は保存運動をためらっていた前島氏と、彼女と共に行動を起こした人々。地域の歴史を愛し、文化財を守ろうとする人々の思いを感じられる一冊です。

雑司が谷旧宣教師館 外観



『雑司が谷物語—聞き書き・前島郁子ひと筋の道—』今井洋子/著

# 「トキワ荘」の面影を追って

再現施設としての「トキワ荘マンガミュージアム」

豊島区立トキワ荘マンガミュージアム 学芸員 幸田美聡

「トキワ荘」はかつて旧椎名町5丁目(現南長崎3丁目16-6)にあった、モルタル二階建ての木造アパートです。1952年(昭和27)12月に棟上げされ、その30年後の1982年(昭和57)12月に解体されました。今日この建物が多くの人の注目を集めるのは、一時期複数のマンガ家が居住したこと由来ですが、普通の賃貸アパートのひとつでした。

2020年7月7日に開館を迎えた豊島区立トキワ荘マンガミュージアムは、築およそ10年の「トキワ荘」の様子を再現した建物になっており、かつて椎名町に存在していたその姿を現代に見ることが出来ます。

当施設では、18号室(山内ジョージ)、19号室(水野英子)、20号室(よこたごお)でマンガ家の住んだ部屋の様子が再現されています。ここで一つ、各部屋の机の向きに注目してみましよう。すべての作業机が窓側に置かれている事がわかります。スタンドライト等は既にありませんでしたが、窓辺の明るい場所が、マンガ家が仕事をするとあって好まれた事がわかります。

当施設は北向きに建てられていますが、実際の「トキワ荘」は東を向くように建てられていました。東を向いているということは、14号室がある側が東向きになります。普通の木造アパート「トキワ荘」にマンガ家たちが集まるきっかけとなったのが、手塚治虫の同居です。手塚は14号室に居住していました。日が昇ってくる東側の部屋は、朝から晩まで制作を続けるマンガ家にとって、特に好ましい場所であったと言えるかもしれません。

のある多くのマンガ家(編集者も含む)がここの日々をマンガや文章によって書き残している事が大きいでしょう(注1)。居住の有無に関係なく、ここで育まれたマンガ家たちの交流は、アパートを出た後も長く続きます。「トキワ荘」で過ごした時間が、どの方にとっても大切なひと時であったことがうかがえます。

(注1)

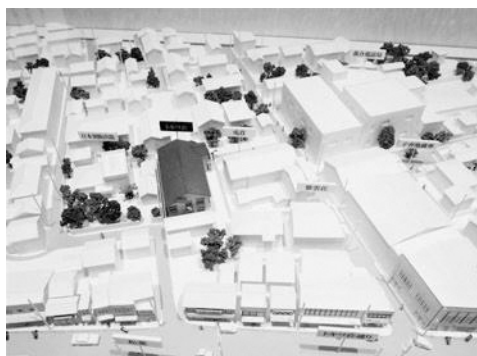
手塚治虫と十一人「トキワ荘物語」(注2)

翠楊社 1978年(1983年に新版が発行)

手塚治虫&13人「トキワ荘青春物語」(注3)

蝸牛社 1995年 ほか

「トキワ荘物語」は『COM』(虫プロ商事)において1969年から1970年にかけて手塚治虫をはじめとしたマンガ家によって執筆された作品を収録。のちに刊行された「トキワ荘青春物語」はそれらに編集者丸山昭の寄稿などを加え、再出版されたもの。



マンガミュージアム二階常設展示室に設置されているジオラマ。1963年(昭和38)の航空写真を元に、214分の1のスケールで制作されています。

『まんがトキワ荘物語』手塚治虫 ほか/作

『トキワ荘青春物語』手塚治虫 & 13人/著

### 〈マンガと文字と国際貢献〉

## 山内ジョージ氏

# マンガから世界の文字絵へ

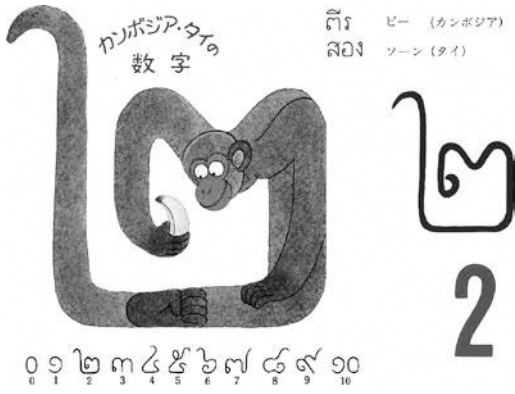
豊島区立トキワ荘マンガミュージアム 学芸員 西牟田道子

山内ジョージ(1940年)は手塚治虫の影響を受けマンガを描き始め、18歳のころ宮城県から上京、同郷の石ノ森章太郎や、赤塚不二夫のアシスタントとして豊島区のアパート・トキワ荘で過ごします。自身の作品としては、主にギャグマンガを執筆。「総務部総務課山口六平太」で知られるマンガ家・高井研一郎との合作も発表しています。

そして、東京オリンピック前後のイラストレーターやデザイナーが注目され出した時代、山内はマンガをイラストで表現する「文字絵」という新しい作品を発表します。初期に制作したのはゴリラを頭文字のGに当てはめたものでした。

その後は、アルファベット・ひらがな・漢字などを自在に操り「よめるカナ」、「動物どうぶつABC」など絵本を出版します。教科書にも作品が掲載されるなど、動物と文字の組み合わせは、子どもたちに広く受け入れられました。

日本で精力的に活躍する中、山内は、カンボジアの子どものための支援活動を行うペン・セタリン氏と出会います。彼女の活動に賛同し、子どもたちの識字率の向上のために、イラストを制作します。その作品たちはクメール語のアルファベット一覧表(一文字一文字がへびやサルなどの文字絵)や、学習帳として好評を得ました。そして、次に教科書の制作にとりかかります。教科書には、物語、世界の歌など



識字教育の教材にもなっている山内氏の文字絵

もに、挿絵がふんだんに掲載され、知識を与えるだけでなく、内紛が続いていた現地の子どもたちを明るい気持ちにする一冊が完成しました。

識字表や教科書は現在もカンボジアで使われ、子どもだけではなく、学習の機会がなかった成人女性のための就業支援にも活用が広がっています。マンガならではの親しみやすさとユーモアがある山内のイラストが、多くの人の学習を支えています。山内は80才になった今もライフワークとして文字絵制作に取り組み、「アジア各国の文字絵作品を作りたい」と話します。当館では、山内の部屋を再現展示するとともに、インタビュ映像を上映しており、創作活動の一端をご覧いただけます。

## ふたつの公園で、子ども向けの「本」が楽しめます。

青々と芝生が広がる“南池袋公園”のトイレ壁面に巣箱の形をしたブックシェルフがあるのをご存じですか？扉を開けると、“乳幼児から小学校低学年を対象にした季節の絵本”が顔を出します。

また、新しくオープンした“としまキッズパーク”の中にも図書室があります。IKEBUSを監修した世界的な工業デザイナー水戸岡鋭治氏がデザインしたこの公園は、中央にはミニSL (IKEDEN) が走り、大好きな絵本を手にとれる、小さな子どもたちの夢がかなう公園です。真っ赤なカラー(池袋レッド)が印象的で可愛い図書室にはリサイクル本(絵本や読み物など)がたくさん。是非、ふたつの公園でお気に入りの本を見つけてみてはいかがでしょうか？自然光の中で、お子さんと一緒に本を

読み、感じたことや考えたことを話し合ったりしても楽しいと思います。

### ◆南池袋公園(南池袋2-21-1)

展示は開園時の午前10時から午後4時(降雨、降雪、強風などの悪天候時は展示無し)。

### ◆としまキッズパーク(東池袋4-42)

新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として、当館の間WEBでの事前予約制

予約サイト▶ <https://www.toshima-kids-park-reservation.jp/>



## オンライン特別講演会 テーマ「オリンピックと文学者」配信中

東京2020大会の開催を来年に控え、大会をより楽しむためにオンライン特別講演会を全3回で配信中です。ご視聴は豊島区公式YouTubeチャンネル「としまななまるチャンネル」からご覧ください。

講師 岡岡 幸一郎 氏(鎌倉文学館館長)

- 第1回 スポーツと文学者
- 第2回 幻の東京オリンピック1940
- 第3回 東京オリンピックと三島由紀夫

●オンライン講演会の詳細は豊島区立図書館ホームページへ <https://www.library.toshima.tokyo.jp/> ※第2回、第3回は11月中旬ごろ配信予定。



## 休館のおしらせ

※千早図書館は修繕工事のため、11月18日～22日の期間は休館となります。 ※池袋図書館は修繕工事のため、2021年3月31日まで休館となります。

開館時間	中央図書館	駒込・上池袋	巣鴨・目白図書館	雑司が谷図書貸出コーナー
平日	午前10時～午後10時	午前9時～午後8時	午前9時～午後7時	平日 午前10時～午後7時
土日祝	午前10時～午後6時	午前9時～午後6時	午前9時～午後6時	土日祝 午前10時～午後5時
	※駒込図書館は、平日は、午前8時から資料の返却と、予約資料の受取りができます。	※千早	※目白	
		平日 午前9時～午後7時	平日 午前9時～午後8時	
		土日祝 午前9時～午後6時	土日祝 午前9時～午後6時	

11月	12月	1月
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
① 2 ③ 4 5 6 ⑦	① 2 3 4 5 6 ⑦	① 2 ③ 4 5 6 ⑦
⑧ 9 10 11 12 13 ⑭	⑧ 9 10 11 12 13 ⑭	⑧ 9 10 11 12 13 ⑭
⑮ 16 17 18 19 20 ⑰	⑮ 16 17 18 19 20 ⑰	⑮ 16 17 18 19 20 ⑰
⑱ 20 21 22 23 24 ⑳	⑱ 20 21 22 23 24 ⑳	⑱ 20 21 22 23 24 ⑳
㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘	㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘	㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘
㉙ 30	㉙ 30	㉙ 30
1 2 3 4 ⑤	1 2 3 4 ⑤	1 2 3 4 ⑤
⑥ 7 8 9 10 11 ⑫	⑥ 7 8 9 10 11 ⑫	⑥ 7 8 9 10 11 ⑫
⑬ 14 15 16 17 18 ⑰	⑬ 14 15 16 17 18 ⑰	⑬ 14 15 16 17 18 ⑰
⑱ 20 21 22 23 24 ⑳	⑱ 20 21 22 23 24 ⑳	⑱ 20 21 22 23 24 ⑳
㉑ 22 23 24 25 ㉖	㉑ 22 23 24 25 ㉖	㉑ 22 23 24 25 ㉖
㉗ 26 27 28 29 ㉚	㉗ 26 27 28 29 ㉚	㉗ 26 27 28 29 ㉚
㉛ 30 31	㉛ 30 31	㉛ 30 31
1 2	1 2	1 2
3 4 5 6 7 8 ⑨	3 4 5 6 7 8 ⑨	3 4 5 6 7 8 ⑨
⑩ 11 12 13 14 15 ⑮	⑩ 11 12 13 14 15 ⑮	⑩ 11 12 13 14 15 ⑮
⑯ 16 17 18 19 20 ⑳	⑯ 16 17 18 19 20 ⑳	⑯ 16 17 18 19 20 ⑳
㉑ 21 22 23 24 ㉖	㉑ 21 22 23 24 ㉖	㉑ 21 22 23 24 ㉖
㉗ 25 26 27 28 29 ㉚	㉗ 25 26 27 28 29 ㉚	㉗ 25 26 27 28 29 ㉚
㉛ 30 ㉞	㉛ 30 ㉞	㉛ 30 ㉞

●2024パリにつながる豊島区の文化を再発見しました！(坂)  
●今回は特集号です！本と関わるの深い建物から文化を感じてみてください(小)

## 新航路【54】

新型コロナウイルスの影響で、図書館通信夏号を休刊いたしました。

読者の皆様へ夏号をお届けすることができず、申し訳ありませんでした。現在、図書館では、館内で行う事業の在り方を検討しています。その中で、初の試みとして、豊島区公式YouTubeチャンネル「としまななまるチャンネル」を活用し、書評講座と特別講演会を配信しました。また、おはなし会は、公園の活用など三密防止対策を講じての再開を検討しています。

今年度の豊島区功労者表彰式が10月1日に行われ、ひかり文庫の拡大写本製作に長年ご尽力いただいている、高松登美子さんが表彰されました。今年50周年を迎えるひかり文庫をはじめ、図書館は多くのボランティアの皆様に支えられてサービスの充実を図ることができています。高松さん、そしてボランティアの皆様、いつも本当に有難うございます。今まで通りの活動が難しい状況が続いていますが、引き続きお力添えいただければ幸いです。

